

# 北潟湖周辺 - ため池・丘陵辺縁部の周辺 -



水草の豊富なため池



山ぎわの水田

## 選 定 理 由

・県レッドデータブック掲載種（県RDB種）が多種確認されている

県レッドデータブック掲載種数： 66種（面積約1,600ha）

自然の概要	北潟湖周辺にある福良池やいくつかのため池には、ヒシ、マツモなどの水生植物が豊富に生育し、オグマサナエなどトンボ類の生息地になっています。また、丘陵の谷部にある水田は、年間を通じて湿った状態が保たれているため、ミズワラビなどの湿性植物が生育する他、排水路周辺では産卵等のために北潟湖から遡上する様々な魚類が見られます。
保全すべき主な環境	ため池、福良池、山田（丘陵辺縁部の水田および放棄田）小川（湖に近い水路、植生のある水路）
自然保護関係法の指定	越前加賀海岸国定公園（一部）、北潟湖獣保護区（一部）
もっと詳しく知りたい人へ	福井県のすぐれた自然動物編,p426 [北潟湖のトンボとコウチュウ類] ,p108[北潟湖（渡り鳥の渡来地または中継地、猛禽類の多様な地域）] みどりのデータ・バンク総括報告書,p57-60 [北潟湖地区] 福井県自然環境保全基礎調査報告書,p208-209 [北潟湖畔]、p234-237 [北潟湖・大堤]

## 該当地の位置



## 保全すべき環境に生息・生育している生物



オグマサナエ  
県域絶滅危惧 類  
池沼や水田、溝川に生息



メダカ  
県域絶滅危惧 類  
池と沼、河川下流部の岸辺、水田とその用排水路に生息



ヨシゴイ  
県域絶滅危惧 類  
湖沼、河川、休耕田などの、ヨシ、マコモ、ガマ類などが繁茂する湿地に生息



アオヤンマ  
県域準絶滅危惧  
池沼や湿地に生育、草原で摂食



ヨシガモ  
県域準絶滅危惧  
水草の生える湖、池に生息

# 陣ヶ岡丘陵地周辺 - 池・湿地・水路 -



山ぎわの水田



池が陸化した湿地



林の中にある湿地

**選 定 理 由** ・県レッドデータブック掲載種（県RDB種）が多種確認されている

**県レッドデータブック掲載種数：** 34種（面積約190ha）

<b>自然の概要</b>	丘陵斜面の下に点在する浅い池や湿地が、ミズキノシタなどの湿性植物や、オオコオイムシやネアカヨシヤンマなど水生昆虫の生息・生育地になっています。また、湧水のある山ぎわの水路には、清流を好むホトケドジョウが生息しています。
<b>保全すべき主な環境</b>	湧水湿地、池、小川（湧水の流れ込む水路）
<b>自然保護関係法の指定</b>	越前加賀海岸国定公園（一部）
<b>もっと詳しく知りたい人へ</b>	みどりのデータ・バンク総括報告書,p63-66[東尋坊雄島地区]

## 該当地の位置



## 里の生き物紹介 ホトケドジョウ（コイ目ドジョウ科）

ドジョウの一種ですが、全長は4～6cmと小型で、ひげが8本（ドジョウのひげは10本）あります。ドジョウは比較的汚れた水質の場所でも、泥があればすめますが、ホトケドジョウは湧き水のあるきれいな小川にすみます。

ホトケドジョウがすむような小さな湧き水はあまり目立たないため、気づかれずに埋め立てられたり、コンクリートで覆われたり、水質が悪くなるなどして減ってきています。

## 保全すべき環境に生息・生育している生物



ホトケドジョウ  
県域絶滅危惧 類  
湧水を水源に持つ細流、水路や池の砂れき底や泥底に生息



メダカ  
県域絶滅危惧 類  
池と沼、河川下流部の岸辺、水田とその用排水路に生息



ミズキノシタ  
県域絶滅危惧 類  
池沼、ため池、河川、水路に生育



ネアカヨシヤンマ  
県域絶滅危惧 類  
ヨシやマコモ、ガマが繁茂した沼池、特に周辺に森林がある丘陵地の沼に生息



オオコオイムシ  
県域準絶滅危惧  
水生植物が繁茂した浅いため池、湿地、休耕田に生息

# 金津東部 - ため池群・山ぎわの水田・水路 -



水草の豊富なため池



低山に囲まれた農地

**選 定 理 由** ・県レッドデータブック掲載種（県RDB種）が多種確認されている

**県レッドデータブック掲載種数：** 66種（面積約2,400ha）

自然の概要	あわら市の細呂木地区や剣岳地区には、丘陵斜面に沿って水生植物相の豊かなため池が比較的多く存在しています。また、山ぎわの水田や水路には、湧水が流れ込み、ホトケドジョウ、キイロサナエなどの水生生物が生息しています。県内では数か所ですみ確認されていないホシチャバネセセリが確認されています。
保全すべき主な環境	ため池、山田、雑木林 小川（山ぎわの水路、湧水の流れ込む水路） 草はら（丘陵地と水辺にはさまれた草地）
自然保護関係法の指定	刈安鳥獣保護区（一部）
もっと詳しく知りたい人へ	福井県のすぐれた自然動物編,p113 [刈安山] 福井県のすぐれた自然植物編,p95 [牛ノ谷の白山神社のスタジイ林], p97 [沢の春日神社のスタジイ林], p99 [高塚の春日神社のスタジイ林]

## 該当地の位置



## 里の生き物紹介 ホシチャバネセセリ（チョウ目セセリチョウ科）

県内では生息地が2・3か所しか見つかっていない珍しい小型のチョウです。幼虫のときに食べるオオアブラスキの生える山ぎわの草地にすんでいます。

## 保全すべき環境に生息・生育している生物



ホトケドジョウ  
県域絶滅危惧 類  
湧水を水源に持つ細流、水路や池の砂れき底や泥底に生息



ホシチャバネセセリ  
県域絶滅危惧 類  
食草オオアブラスキの生えた草地に生息



ヒツジグサ  
県域絶滅危惧 類  
腐食栄養または貧～中栄養の湖沼、ため池に生育



サシバ  
県域準絶滅危惧  
森林と農耕地が点在する里山に生息



オシドリ  
県域準絶滅危惧  
落葉広葉樹林に生息、樹洞を利用

# 坂井平野 - 水田地帯 -



水田の三番穂や雑草を食べるために飛来したマガンの群れ



九頭竜川沿いの湿った水田

選 定 理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県レッドデータブック掲載種（県RDB種）（マガン、オオヒシクイ）の繁殖地、越冬地、または旅鳥の重要な中継地点になっている</li> <li>・県RDB種が多種確認されている</li> </ul>
---------	---

県レッドデータブック掲載種数： 68種（面積約7,200ha）

自然の概要	九頭竜川河口の周辺に広がる水田には、開けた湿地を好む鳥類が飛来し、特に冬期は片野鴨池（石川県）をめぐらとするマガン、オオヒシクイにとって重要な採餌地になっています。また、ホウロクシギに代表されるシギやチドリ類など旅鳥の重要な休息地となっています。さらに、一帯の排水路には傾斜がほとんど無く、冬期も水が無くならないため、メダカなど流れの穏やかな水路を好む生物の安定した生息地になっています。
保全すべき主な環境	広い水田、小川（一年中水のある排水路）
もっと詳しく知りたい人へ	福井県のすぐれた自然動物編,p112 [坂井平野（渡り鳥の渡来地または中継地）] 福井県のすぐれた自然植物編,p106 [金剣神社の社叢林]

## 該当地の位置



## 里の生き物紹介 マガン（カモ目カモ科）

全長72cmの水鳥で、体は灰褐色、くちばしはオレンジ色で、くちばしの周りが白色です。福井県には、11月から3月までの間、冬鳥としてやって来ます。水田などに群れで訪れ、イネの落ち穂、二番穂、草などを食べます。しかし、警戒心が強いので、車や人がたくさんいるような場所にはあまり降りてきません。

## 保全すべき環境に生息・生育している生物



オオヒシクイ  
県域絶滅危惧 類  
主に、開けた水田地帯、河川、池沼も好む



マガン  
県域絶滅危惧 類  
広い水田や休耕田を好む



ホウロクシギ  
県域絶滅危惧 類  
海岸の砂浜、河口の砂泥地などの他、水田を好む



メダカ  
県域絶滅危惧 類  
池と沼、河川下流部の岸辺、水田とその用排水路に生息



コハクチョウ  
県域準絶滅危惧種  
湖沼・河口・内湾に見られ、二番穂のある水田等で採餌

# 福井市鷹巣地区北部 - 池・山ぎわの水田 -



水草の豊富なため池



湿地に生育していたモウセンゴケ



湿地化した斜面

**選 定 理 由** ・県レッドデータブック掲載種（県RDB種）が多種確認されている

**県レッドデータブック掲載種数：** 23種（面積約310ha）

## 自然の概要

内陸には傾斜のゆるやかな谷がいくつもあり、谷沿いに水田やため池が存在しています。ため池にはジュンサイなどの水生植物が生育し、山ぎわの斜面にある湧水湿地にはモウセンゴケなどが生育しています。

## 保全すべき 主な環境

ため池および池、  
湧水湿地（モウセンゴケの生育する土手）

## 該当地の位置



## 里の生き物紹介 ジュンサイ（スイレン科）

ジュンサイは、楕円形の葉を持つ水草です。6～8月には直径1.5cm前後の赤い花が咲きます。スイレンの仲間ですが、花は小さいため目立ちません。

ジュンサイの若芽や茎や葉の裏面は、ぬるぬるとした粘液で覆われています。スーパーマーケットに売られていたり、料理屋さんでお吸い物などに入っている、ぬるぬるとした若芽の植物と同じものです。6月ごろに、盛んに伸びる若芽をつみ取って食用にします。

ジュンサイは落ち葉のたまった古い池や、水が比較的きれいな池に生えます。このため、池の水が汚れるとどんどん少なくなっていきます。また、川には全く生えず、池に生えるのもジュンサイの特徴です。最近では池が汚れたり、開発などによって埋められることが多くなり、ジュンサイも少なくなっています。

## 保全すべき環境に生息・生育している生物



カトハガイ  
県域絶滅危惧 類  
緩やかな流れのある小河川や農業用水路、湖沼等の砂泥底に生息



ヤマトミクリ  
県域絶滅危惧 類  
湖沼、ため池に多く、河川など流水域ではまれ



ジュンサイ  
県域準絶滅危惧  
腐食栄養または貧～中栄養の湖沼やため池に生育



モウセンゴケ  
要注目  
日当たりの良い酸性湿地に生育



リンドウ  
要注目  
山野の日当たりの良い草地に生育

# 高須山山麓 - 棚田・周辺の森林 -



斜面に広がる棚田



森に囲まれた棚田

**選 定 理 由** ・県レッドデータブック掲載種（県RDB種）が多種確認されている

**県レッドデータブック掲載種数：** 13種（面積約130ha）

## 自然の概要

山の急斜面に存在する棚田と集落で、集落周辺には畑や水田が開かれ、これを取り囲むように背の高い林が存在しています。この良好な環境を利用してサシバ、アオバズク、サンコウチョウなどが生息しています。また、山ぎわの水田や休耕田にはシャジクモなどの水生植物が生息しています。

## 保全すべき主な環境

山田（棚田）、巨木林（集落周辺の背の高い林）

## 該当地の位置



## 里の生き物紹介 サシバ（タカ目タカ科）

全長49cm、カラスくらい大きさのタカの仲間です。色はトビよりも白っぽい色をしています。県内には4月中旬から10月の間に夏鳥としてやってきて子育てをし、冬は東南アジアですごします。

森の中に巣を作って子どもを育てますが、餌は、カエル、ヘビ、トカゲ、ネズミ、モグラ、バッタなどで、森と畑、森と水田など、森の境界部分に移動して探します。

県内のほぼ全域で見られますが、最近では、水路のコンクリート化、農薬の使用など、餌になる小動物が少なくなっているため、繁殖成功率の減少が心配されています。

## 保全すべき環境に生息・生育している生物



シャジクモ  
県域絶滅危惧 類  
湖沼、溝、水田、川に生育



アオバズク  
県域絶滅危惧 類  
大径木林などに夏鳥として渡来し、主に樹洞を利用して繁殖



アカショウビン  
県域準絶滅危惧  
深山の溪流沿いの広葉樹林に生息



サシバ  
県域準絶滅危惧  
森林と農耕地が点在する里山に生息



サンコウチョウ  
県域準絶滅危惧  
大径木の社寺林、スギ林、落葉広葉樹林に生息

# 福井市上郷地区 - 山ぎわの水田・周辺の森林 -



山に囲まれた水田



水田の周辺にある背の高い林

**選 定 理 由** ・県レッドデータブック掲載種（県RDB種）が多種確認されている

**県レッドデータブック掲載種数：** 14種（面積約150ha）

## 自然の概要

山中に存在する水田と集落で、集落周辺には畑や水田が開かれ、これを取り囲むように背の高い林が存在しています。この良好な里地環境を利用してサシバ、サンコウチョウ、ムササビなどが生息しています。また、山ぎわの水田や休耕田にはシャジクモなどの水生植物やハッチョウトンボが生息・生育しています。

## 保全すべき主な環境

山田（山ぎわの水田および休耕田）  
巨木林（集落周辺の背の高い林）

## 該当地の位置



## 里の生き物紹介 サンコウチョウ（スズメ目カササギヒタキ科）

全長17～45cm、長い尾をひらひらさせながら優雅に飛び、目の周りがコバルト色をした美しい鳥です。暗い林の中を飛び回り、飛んでいる昆虫を空中で捕まえて食べます。

日本には夏鳥として渡来し、本州から屋久島までの各地で繁殖し、樹皮を主に使ってコップ状の巣を作ります。また、つがいで縄張りを持ち、訪れる場所は毎年決まっているようです。

県内では、標高の低い場所にある、巨木がたくさんある森で観察されますが、すみかにしている場所は多くありません。

## 保全すべき環境に生息・生育している生物



**サシバ**  
県域準絶滅危惧  
森林と農耕地が点在する里山に生息



**サンコウチョウ**  
県域準絶滅危惧  
大径木の社寺林、スギ林、  
落葉広葉樹林に生息



**ハッチョウトンボ**  
要注目  
日当たりのよい湧き水のある湿地や休耕田に生息



**アオシギ**  
営巣地は山地の溪流近く  
の草原



**ムササビ**  
樹洞のある大径木林に生息

み さら け  
**未更毛川上流 - 山ぎわの水田・ため池 -**



休耕田と水田が点在する農地



山からの水が流れ込む休耕田



山ぎわの水田

**選 定 理 由** ・県レッドデータブック掲載種（県RDB種）が多種確認されている

**県レッドデータブック掲載種数：** 41種（面積約310ha）

**自然の概要**

山ぎわの斜面に湧水があり、所々で水田や水路に流れ込んで湿地を形成しています。このため、この良好な環境を利用するハッチョウトンボ、モウセンゴケが生息・生育しています。また、山ぎわの水田にはメダカが生息し、畦や土手の草地にはリンドウが生育しています。一帯のため池にはフトヒルムシロなどの水生植物が生育しています。

**保全すべき主な環境**

山田（山ぎわの水田および休耕田）ため池、草はら（リンドウの生育する土手や畦）

**該当地の位置**



**里の生き物紹介** ハッチョウトンボ（トンボ目トンボ科）

体長は16～20mmで、世界で最も小さいトンボの一つです。オスは成熟すると赤くなり、メスは黄色と茶色のしま模様をしています。平地から山地にある湿地で、日当たりが良く、わずかな湧き水がある、草丈の低い湿地を好みます。本州から九州にかけて分布していますが、県内では見られる場所が限られています。

ハッチョウトンボが好む湿地は、放っておくと草が茂りすぎ、木が生えてしまうような不安定な環境ですが、このような場所が埋め立てによって無くなってしまいうことも多く、ハッチョウトンボの減少に拍車をかけています。

**保全すべき環境に生息・生育している生物**



アオバズク  
 県域絶滅危惧 類  
 大径木林などに夏鳥として渡来し、主に樹洞を利用して繁殖



メダカ  
 県域絶滅危惧 類  
 池と沼、河川下流部の岸辺、水田とその用排水路に生息



オオニガナ  
 県域絶滅危惧 類  
 山中の湿地、休耕田



ハッチョウトンボ  
 要注目  
 日当たりのよい湧き水のある湿地や休耕田に生息



リンドウ  
 要注目  
 山野の日当たりの良い草地に生育